

2016 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答の要旨

【定期船事業】

Q1 欧州航路の需給の状況について教えてください。

A1 全体は昨年の需要の伸びは 7～8%でしたので、今年度期初時点では最低でも 4%は伸びると見ておりました。現在までのところ、北米航路は堅調だったのに対し、欧州航路はマイナス成長（－5%弱）であり、一方供給は昨年度比 10%ほど増加しており、運賃下落につながっていると考えています。来年度はそこまで悪くはなく、少なくともマイナス成長ではないと見ております。なお当社は、決算発表の下期前提に関し、需要は上期比で 7%減と見ており、一方供給スペースは上期比で 13～14%減らしており消席率をあげて合理化効果を出そうと考えております。

Q2 今回の下期運賃想定の達成確度を教えてください。

A2 供給は来年一段落すると考えており、またこれから来年度の運賃契約交渉も始まるので、運賃は下げ止まったと考えています。足元では各社本格的に減便の動きが進んでおり、欧州のみならず北米でも同様の傾向があると見ているため、タイト感が出てくると考えております。

Q3 運賃市況が悪い中、定期船事業で下期黒字となる要因を教えてください。

A3 一つには、変動費削減など自助努力によるコスト削減の強化が黒字化につながっていると考えております。

Q4 航路合理化の進捗を教えてください。

A4 北南米航路・アジア-西アフリカ航路は間もなくサービスを休止し、また豪州航路の見直しも行い、来年春頃にはサービスを休止する予定です。さらにアジア航路の改編も行い、日本-タイ航路やフィリピン向けで航路統合等を行っております。事業の安定性を念頭に置きながら果敢に進めていきたいと考えています。

【不定期専用船事業】

Q1 リキッド部門の下期損益と、来年度の市況の見方について教えてください。

A1 上期は全船種で市況は好調でしたが、下期はやや軟化すると見ています。下期は、LPG 船やプロダクトタンカーなどの新造船が竣工するため、これらの市況は上期比でやや下落するかと思われます。VLCC 市況は上昇・下落を繰り返しているため傾向を読みにくいところがありますが、長年契約内容が悪かった契約の更改に伴い内容を修正しているので、下期もリキッド部門の収支は堅調であると考えています。来年度以降の見方に関しては、VLCC は今年度新造船が約 17～18 隻、来年度は 40 隻ほど竣工予定ですが、大半が下期の竣工と思われるので、来年度上期までは悪くはない市況レベルで推移するのではないかと見ています。LPG 船やプロダクト船に関しては、足元で新造船は増えており市況は予測しにくいですが、今年ほどの盛り上がりを期待するのは難しいものの、来年度についてもある程度期待できると思います。

Q2 ドライバルカーとタンカーのフリー船の状況を教えてください。

A2 ドライバルカーに関しては基本方針通り、運航隻数を着実に減らしておりますが、一方で現在の非常に低い市況を反映し、顧客との契約更改に際して暫くは運賃を固定しない形で更新したものがあり、残念ながら市況の影響を受ける船の数は殆ど減っておりません。タンカーに関しては元々市況の影響を受ける船は限定的で、これまでと変わりありません。

【その他】

Q1 来年度の収支に関し、今年度比で増益する要因があれば教えてください。

A1 ドライバルク事業は改善すると考えています。色々な要因があるとは思いますが、足元のマーケットセンチメントは悪すぎる状態にあると思われ、IMF の経済予測によると来年度は今年度比でグローバルのGDPの伸び率も良化しており、また中国の景気減速への反応もやや過剰だと思いますので、さすがに改善してくるのではないかと見ています。また、運賃安定型事業であるLNG・海洋事業で来年契約開始するものも出てきますので、収支は良化すると見ております。

以上